

2009オープンキャンパス

今年も、本学や工学分野に興味のある高校生、高専生等の方を対象にオープンキャンパスを開催します。
当日は、42研究室の公開、模擬講義、学生による工学分野の説明等を行います。
この機会に本学の高度な「ものづくり」技術、工学のおもしろさを体感してください。



- 日 時／平成 21 年7月 26 日（日）
10 時～ 15 時 30 分
- 会 場／長岡技術科学大学
- 交 通／JR長岡駅より技大前行きバス30分
無料送迎バスあり
- 内 容／公開研究室見学
模擬講義
工学分野の説明
個別相談（入試、学生生活等）

- 日 程／
1. 開会あいさつ・大学概要紹介
 2. 模擬講義
「タイヤ・テクノロジーの進歩～あくなき安全性の追求～」
講師：物質・材料系 教授 五十野善信
 3. 公開研究室見学
 4. 学生による工学分野の説明
 5. オールプレゼンテーション 学生による英語のプレゼンテーション
 6. NUT テクノミュージアム・図書館見学
 7. 全体説明
 8. 個別相談会

お問い合わせ

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1
長岡技術科学大学 入試課入学試験第2係

Tel.0258-47-9258 Fax.0258-47-9070 E-mail : nkoho@jcom.nagaokaut.ac.jp
URL : <http://www.nagaokaut.ac.jp/j/nyuushi/opencampus.html>

編集後記

フレッシュャーズのみなさんには2号目となるVOSをお届けしました。VOSをずっとご覧いただいている方々には、今号のVOSは誌面の印象が少し違っていただけたかもしれません。特集ページの写真をいつもより多めに掲載して、フレッシュャーズのみなさんの様子をいっきとお届けできたと思います。技大での新生活にも少しずつ慣れてきて「技大にきて良かった」という気持ちがお伝えできたなら幸いです。フレッシュャーズのこれからの活躍とともに、次号以降のVOSにもご期待ください。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.152 [平成21年6月号]

編集発行 長岡技術科学大学広報委員会[総務部 総務課]

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000

E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : <http://www.nagaokaut.ac.jp/>

VOS

2009
June

NO.152

Nagaoka University of Technology

VOS

VITALITY
ORIGINALITY
AND
SERVICES

長岡技術科学大学 広報



NO.152
2009.June

特集 技大の フレッシュャーズ

CONTENTS

- 02_ 特集:
技大のフレッシュャーズ
- 10_ ギダイみてある記
- 11_ 長岡の歴史探訪／トピックス
- 12_ 実務訓練
- 13_ メタン高度利用技術研究センター設置
- 14_ イベント情報
- 16_ オープンキャンパスのお知らせ／編集後記

短かった桜の季節を過ぎ、長岡技大もまもなく夏を迎えようとしています。今春に技大に入ってこれたみなさんは、どんな技大生活を送っているでしょうか。本号のVOSでは、技大のフレッシューズの新生活の様子をお伝えしたいと思います。

VOS 新部長からメッセージ



広報委員会
VOS専門部長
生物系 准教授
高原 美規
— YOSHINORI TAKAHARA



MESSAGE

01

>>> 新しい季節 新しい出会い

この4月から、長岡技術科学大学の広報誌「VOS」の編集を担当することになり、何をしたら良いのか改めて考えました。私なりに出した結論はシンプルなもの、本学をそのままに知ってもらふこと、です。それが、本学を好きになって大学内外で活躍する力となり、あるいは学外から応援しようと思ふ心につながる、と思うのです。

大学には、学長をトップとする教職員と、学生・大学院生が所属していますが、共同研究を行う企業や研究所、教職員や学生のご家族、地域社会の皆さんや同窓会を含め、様々な人が出会い関わり合いを持つことで始

めて、一つの大学が生き活きと有機的に機能することができるのだと考えています。

その一人一人の顔がよく見えるように、一人一人がそれぞれの場所で何を思い、何を目標にしているのかをそのままに伝えることで、本学の魅力を伝えられるような「VOS」にしたい、というのが私の抱負です。

この152号では、新しい生活を始めたフレッシュな方々のそれぞれの思いを、特集でお伝えします。新しい出会いと関わりの中で、それぞれの活躍の場を見つけ充実した生活を送られるよう応援するとともに、新しいVOSを感じていただければと願っています。

学部1年生の新生活紹介



英語の授業にて



友達と一緒に



MESSAGE

02

材料開発工学課程1年
(新潟県立長岡工業高校出身)

清水 猛

— TAKERU SHIMIZU

>>> 新たなスタート

「よっしゃあ！今日も頑張るぞっ!!」と毎日張り切って大学生活を送っています。私は高校時代に猛勉強をして、この長岡技術科学大学に合格することができました。苦勞して入った大学なのでいろいろなことに挑戦し、充実した楽しい大学生活を送りたいと思います。

まず、私が大学生活において打ち込みたいことは野球のサークルです。数年ほど前に、全国大会に出場したサークルなので、私も目指してみたいと思いました。また、私は野球のクラブチームにも所属しているので、それと両立させるのはとても難しいことですが、どちらとも大会で良い成績が残せるように、日々の練習を頑張りたいと思います。

そして、長岡技術科学大学のモットーであるVOS (Vitality, Originality, Services) の精神の「Services=世のための奉仕」とし

て、ボランティア活動をしたいと思い、現在活動中です。小学校の「学習支援ボランティア」というものに参加させてもらい、子どもたちと一緒に勉強をしたり、遊んだり、また、ある野球のスポーツ少年団で野球を教えたりしています。地域の方々との交流を深め、立派な社会人となるために今後もどんどんボランティア活動をしていきたいと考えています。

しかし、大学生活は高校と違って課題やレポートに追われる毎日となっています。さらに、私は工業高校出身で、周囲の人との学力差を感じており、今は不安と楽しさが交差しています。したがって、上記のような活動はある程度制限されてしまっていますが、新しくできた友達やサークルの先輩方に助けを借りながら、大学生活を思う存分楽しんでいきたいと思っています。

学部3年生の新生活紹介



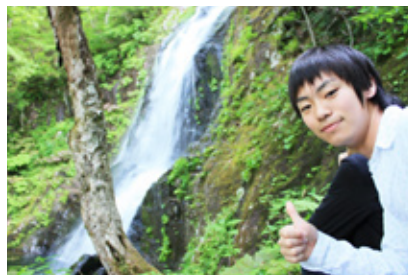
宇津江四十八滝にて



煎餅屋にて（筆者中央）



一億円の重み！（新入生合宿研修にて。もちろんダミーです）



宇津江四十八滝にて

MESSAGE

03

経営情報システム工学課程3年
（岐阜高専出身）

前田 竜之介

RYUNOSUKE MAEDA

>>> 技大での新生活

技大に来てはや2ヶ月！最初は慣れないことばかりだったけれど、クラスみんなは、沖縄から北海道、外国から来た留学生などバリエーション豊かで、ノリがよくて接しやすい人が多く、今の生活はとても楽しい！友達もできて、生活も落ち着いてきたと思う。

キャンパスはとても広く、どこまであるかまだ把握できてない！自分の所属している経営情報システム工学課程では、24時間使用できるパソコンルームがあるので、便利だし、自由に時間配分を変えられるのが嬉しい。自分は寮で生活しているので、友人と遊びやすい＆一緒に課題を相談しやすい。また、車があると、色んなところに出かけることができる。

1ヶ月の間に長岡市内をはじめ、新潟に買い物に行ったり、福島にラーメンを食べに行ったり、日本海に沿って山形や秋田に行ったり…etc。また、長岡市内のカラオケが安いのが嬉しい。ただ、気候がまだ把握できてないから、冬の雪が怖い（焦）。

今後の目標は、経営と情報のことを中心に学んで、学部4年で実務訓練を行い、大学院で勉強した後就職を目指したい。理系の目線で経営を分析する力を身につけ、それを生かせる会社に就職したい。また、在学中に47都道府県すべての地を踏んで、見聞を広めたい！



第3学年合宿研修



第1食堂

>>> 新しい環境で

長岡に引っ越してきた当初、消雪パイプや自動車学校の教本でしか見ることもなかった停止線の標識、融雪注意報という言葉は初めて見て、雪国に来てしまったと、言いようのない気持ちになったことを覚えています。

高専時代から一人暮らしだったので、生活の面での問題は特にありませんでしたが、なにぶん遠方からの編入ということもあり、顔見知りの全く居ない状況はやや不安でした。しかし合宿研修が終わり、授業の始まる頃には友人も増え、履修申告など大学生活について教えてもらったりするうちに1ヶ月が経ち、だいぶ長岡での暮らしにも慣れてきました。

今は日々の課題などをこなしつつ、2級建築士の資格取得を目指し、放課後には外部の講習へと通ったりしています。サークル活動に関しては、高専の時のようにアーチェリーがやりたくて、友人らと同好会設立のために動いているので、正式に認可されて活動できるようになるのを心待ちにしているところです。

高専に比べて自由度が高い分、自己責任という言葉を重ねる感じがします。努力するのも怠けるのも、全て自分自身に返ってくるのですから、将来やりたいこと、そのために今から出来ることを意識して、今を精一杯頑張りたいです。



MESSAGE

04

環境システム工学課程3年

（徳山高専出身）

藤武 麻衣

MAI FUJITAKE

アドバイザー教員による新入生紹介



小林智裕君
(長岡大手高校出身)
「好きなことはスポーツ全般。
将来は新エネルギーの開発を
したい」



近藤宏篤君
(長岡向陵高校出身)
「趣味は読書,具体的な製品
の開発,ものづくりに関わる仕
事につきたい」



小林誠也君
(長岡向陵高校出身)
「英文和訳が好き,ソフトウェ
ア関係の研究に興味があり
ます」



山崎宏幸君
(新潟江南高校出身)
「釣りやサイクリングが好きで
す。自動車の動力機構の研究
をしたい」



アドバイザー教員との顔合わせ

大学院(修士)新入生の新生活紹介



吹奏楽サークルでの温泉旅行



研究室で休憩中

MESSAGE

物質・材料系 准教授
松原 浩

HIROSHI MATSUBARA

>>> 新入生と過ごしたひととき

本学には、学生相談室、学生支援センター、学生相談員、学生の研究遂行上の悩み相談員、クラス担当教員(担任)、アドバイザー教員、学習サポーター、なんでも相談窓口、学生相談箱など学生をサポートするさまざまなしくみがあり、学生が心身共に健全な状態で充実した学生生活を送れるようさまざまな角度から支援を行っています。アドバイザー教員は、4~5名の学生に対して1名の教員が割り当てられ、気楽に相談できる相手として学生生活全般にわたる相談に応じており、学生生活を安心して過ごせるようになっています。

私は今年度入学した学部新1年生4名のアドバイザーを担当しています。「雑談しましょう」と掲示をしたところ4名全てから携帯メールで連絡が来て、授業やアルバイトのない全員の空いている夕

刻に私の研究室を訪れてもらうことになりました。研究室の修士学生にも同席してもらい、自己紹介かたがた小一時間懇談しました。みな行儀良くシャイで控えめな現代風の若者ですが、話し込むうちにひとりひとりの輝く個性と、それぞれが描いている将来の夢や人生のロードマップが伝わってきて、「果たして自分の大学入学当時はそこまで思い描いていたのだろうか?」とあらためて振り返られました。高校を卒業して大学の広いキャンパスにデビューし、新たな世界に踏み込んだばかりの彼らはまさに“輝いて”おり、若さ・新鮮さがまぶしく感じられます。連絡先を記した名刺サイズのカードを渡し「時代は変わっても、変わらないものがここにある。この個性が卒業・修了までにどう開花するだろう…」と思い巡らせた、すてきなひとときでした。



生物機能工学専攻1年
(長岡高専、豊橋技術科学大学出身)
上條 稔恵
NORIE KAMIJOU

>>> Uターン新入生?

私は元々長岡出身で、地元の長岡高専から豊橋技大へ進学しました。当時は豊橋で大学院を修了する予定でしたが、予想以上に地元が恋しくなってしまったのと、高専のときの専門であった植物工学を再び研究したいと強く思ったために長岡技大の大学院へ入学してきました。そのため新しい大学生活を新鮮に感じる気持ちと、長岡の地元感を懐かしむ気持ちと半々程でしょうか。今回は新入生の特集、ということで執筆依頼を頂きましたが、私の場合は少し違うかもしれません。高専のときから交流のあった技大吹奏楽の先輩方からは「お前は新入生じゃないだろう」とからかわ

れる始末ですし…。ですが研究に関して、私は学部4年生よりも遅いスタートとなります。わからないことだらけで不安は少なくありませんが、賑やかすぎるくらい賑やかな研究室で、次々に新しいことを教えてもらい、忙しいながらもとても充実した毎日を過ごしています。
長岡は天気は悪いし、夏は湿気がひどいし、冬はべしゃべしゃの雪が降る…でも豊かな自然に恵まれたとても美しい街ですし、長岡技大も良い大学だと改めて感じています。そんな長岡でまた植物を勉強できることを嬉しく思っており、この2年間を有意義なものにできるよう励んでいきたいと思っています。

フレッシュな技大OBから新入生へのメッセージ



MESSAGE

中部キレスト株式会社 研究部 研究一課 係長
長岡技術科学大学 客員准教授
中村 淳

ATSUSHI NAKAMURA

Profile

1995年4月／中部キレスト株式会社 入社
2005年3月／長岡技術科学大学大学院
博士後期課程 材料工学専攻修了
博士(工学)



中国ワークショップにて(2004年)



筆者と部下の森田博和
(本学 生物機能工学専攻 2000年修了)



実務訓練生とのお別れ(2009年1月)

初志貫徹

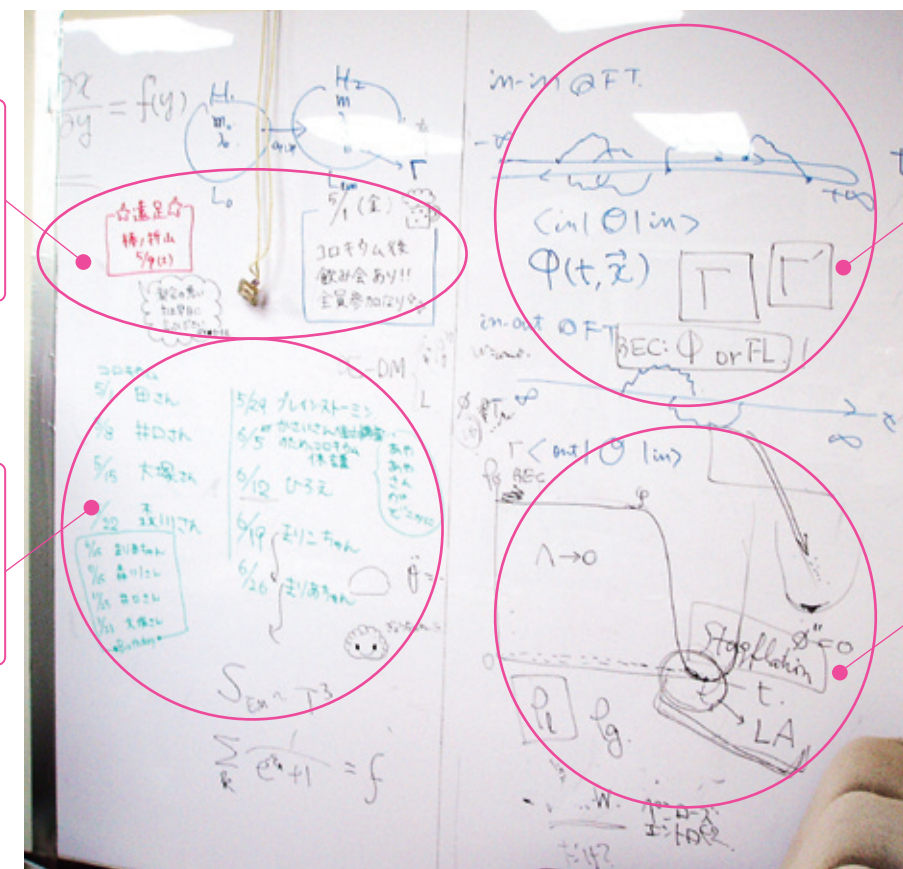
私と本学との出会いは10年前に遡ります。当社と本学物質・材料系の斎藤秀俊先生との技術開発センタープロジェクトにおいて担当研究員に入社僅か4年目で抜擢されたのがきっかけでした。そして平成14年4月に斎藤先生の勧めにより本学博士後期課程(社会人)に入学しました。しかしながら学生と社会人の二足の草鞋は予想以上に大変なものでした。思ったように研究成果を挙げられず焦りと不安に駆られ、会社から期待を持って本学に送り込まれているというプレッシャーで何度も心が折れそうになりましたが、初志を貫き最後までやり遂げることができました。この経験は今でも仕事においても大きな心の支えとなっています。

さて技術開発センタープロジェクトの話に戻りますが、この5月で10年目の節目を迎えます。これまでにたくさんの学術的成果を残しましたが、残念ながらそれらを商業的成果に

結び付けることができていないのが現状です。この節目を機に、このたび研究テーマと研究体制の大刷新を行い、私は5月1日付けで本学の客員准教授に任命されました。これから3年間の契約期間中に新技術を確立し、商業的成果に繋がられるよう最後までやり遂げなければなりません。また学生指導の立場からも客員准教授としての責務を果たし、本学の発展に貢献できるよう微力ながら努めて参る所存です。

環境の変化に戸惑い、不安を感じている新入生の方もまだ多いと思いますが、新しいことを始めるには今が一番良い機会です。最初は些細なことでもいいですから目標を持って、最後まであきらめずにやり遂げましょう。そして達成感をもって次のより高い目標にチャレンジすることを繰り返し、有意義な学生生活を送っていただければと思います。

私の抱負・特別編 フレッシュ教員



議論の後のお楽しみ、レクについての連絡

セミナーの予定について

ボーズ・アインシュタイン凝縮と関連した場の理論の形式に関する議論

ボーズ・アインシュタイン凝縮に基づいた宇宙モデルの時間発展に関する議論

宇宙の暗黒エネルギーに関する議論をした後のホワイトボード。ここから様々なアイデアが生まれる。

活発な議論で暗黒を照らせ

4月1日付けで物質・材料系に、前職の沖縄高専から「高専・両技科大間教員交流制度」により赴任しました。偶然、沖縄高専から今年度3名の編入生があり、彼らとはやや腐れ縁になりつつあります。学生の側からすれば、縁の切れたはずの教員が編入先にまたいるのですから、正直勘弁して欲しい気分かもしれません。

担当科目は、主に専門基礎の物理系科目及びそれに類する科目で、研究分野は宇宙物理学の理論です。時々ニュースでも取り上げられる「暗黒エネルギー」や「暗黒物質」の解明に興味を持っています。一般に、宇宙物理学というと何か非常に難しい、また大がかりな装置を使う研究、という印象を持たれがちですが、私の研究で必要なのは紙と鉛筆、

パソコン、そして人との議論です。中でも色々な人との議論は大変重要で、新しいアイデアはそこから生まれてきます。

学生の中には、人とのコミュニケーションを少し苦手と感じている人もいられるかもしれません。しかし、議論することの重要性は何も物理に限った話ではありません。議論とまでいなくても、ちょっとした情報交換でもよいのです。色々な人と接点を持つことを是非心がけてみて下さい。

私としては、やや分野違いではありますが、「宇宙の話にちょっと興味がある」とか「物理が苦手だけどちょっと得意になりたい」というような学生となるべくコミュニケーションをとりながら、自らの研究の糧にしていきたいと思っています。



MESSAGE

物質・材料系 准教授
森田 正亮

MASAKI MORITA

ギダイみてある記

GIDAI
MITE
ARUKI

ギダイ新入生の寮生活



毎週恒例の部屋での飲み会

新学期が始まって約2ヶ月が経ちました。新入生みなさんもそろそろ新生活に慣れてきた頃だと思います。今回の「ギダイみてある記」は、そんな新入生の寮生活を紹介したいと思います。

技大には男子寮と女子寮、さらに留学生が生活する国際交流会館があります。私たちは今回、男子の学部1年生から4年生までが住む男の花園、男子学生寮、その寮生活の実態取材しました。男子学生寮は2棟あり、東山連峰が一望できる景色の良いところに位置しています。部屋はすべて個室で、室内に

は学習机、椅子、ベッド、更衣ロッカーが備え付けてあります。取材に答えてくれた新入生の部屋は内装が新調され、取材した私たちが寮生活を送っていた数年前にはなかったエアコンが完備され、より快適な生活が送れるようになっていました。共用施設としては、大浴場、シャワー室、補食室(ガスコンロ、ガス湯沸かし器)、洗濯室などがあります。学生寮の最も嬉しい点は何より大学に近いことで、徒歩3分足らずで校内に入ることができます。新入生はまだ体験していませんが、雪が多くて通学に大変なときでもすぐに大学に行くこと



やってみると楽しい自炊



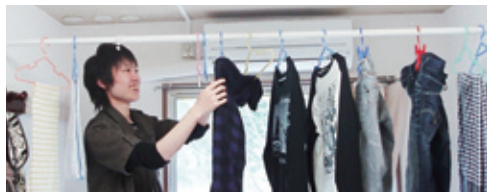
寮の部屋での勉強風景

ができるのです。

初めて一人暮らしを始めた新入生は自分で炊事や洗濯を行わなければならないので、あらためて親のありがたみを感じているようです。寮には、すぐ近くに友達がいつもいるので一緒に遊んだり、勉強したりできることがとても楽しいようです。入学当初はこれからの大学生活に少なからず不安を抱えていたそうですが、寮での新生活も落ち着き、友達と生活していくうちにそうした不安も払拭されて、今ではとても有意義な大学生活を送っている様子でした。



大学から見た学生寮



洗剤はやっぱり部屋干し○○○!!



取材協力してくれた学生
生物機能工学課程3年
古賀峻太郎君(新居浜高専出身)(左)
桑田奨君(八戸高専出身)(右)



ギダイみてある記 取材班
生物機能工学専攻1年
本間洋太(新潟南高校出身)(左)
小関文哉(旭川高専出身)(上)
町田勇氣(都島工業高校出身)(下)

長岡の歴史探訪

【縄文編】

生物系 准教授
高原 美規
YOSHINORI TAKAHARA



馬高遺跡



藤橋遺跡

縄文式土器は、世界最古の土器です。中でも火焰土器は、燃え盛る火炎のような形状の特徴的な土器であり、世界最古級の芸術の一つです。火焰土器はその特異な形状から、日常の煮炊きに用いるものではなく、なんらかの祭祀に使われたものと考えられています。ちなみに火焰土器の芸術性を最初に見出したのは、太陽の塔で知られる芸術家、岡本太郎氏です。

馬高・三十稲葉遺跡で発掘されたものがその第一号で、東北地方南部から北陸地方まで出土していますが、信濃川中流域河岸段丘の縄文遺跡群が、その分布の中心です。

藤橋遺跡は、長岡技大のグラウンド予定

地で発見された遺跡ですが、掘立柱建物跡を含む縄文後期の大規模集落遺跡で、翡翠も出土しており全国でも数少ない玉作りの遺跡として知られています。また、イネのプラントオパールも確認されており、弥生時代以前からこの地で稲作が行われていたことを示しています。

馬高・三十稲葉遺跡や藤橋遺跡は、現在、遺跡公園として整備されています。縄文遺跡といえば、青森の三内丸山遺跡が有名ですが、縄文後期の長岡も広く栄えた火焰土器文化圏の中心であり、藤橋遺跡で作られた翡翠珠がその首長を飾ったと考えられるのです。

トピックス

TOPICS

新着ニュース

- 2009.06.11 新原皓一特任教授を次期学長候補者に決定しました。
- 2009.05.30 名誉教授懇談会を開催しました。
- 2009.05.27 平成21年度実務訓練シンポジウムを開催しました。
- 2009.05.22 タイ科学技術振興機構とジョイントシンポジウムを開催しました。
- 2009.05.19 新技術説明会を開催しました。



タイ科学技術振興機構とのジョイントシンポジウム

実務訓練

平成21年度(第30回)実務訓練シンポジウム



実務訓練委員会委員長
機械系 教授
増田 渉
WATARU MASUDA

大河ドラマで地元の英雄、直江兼統の”愛”が全国的に有名になりましたが、今年度の実務訓練シンポジウムは「産学相思相”愛”実務教育にむけて」をテーマとし、平成21年5月27日に開催されました。

確かな職と確かな人を結びつけるためには、企業に大学の理念や教育方針、成り立ちなどをしっかり理解していただき、大学も同様に企業を正しく理解しなくてはなりません。今回のシンポジウムでは、ニッテツコラム株式会社代表取締役の村田稔様から「実務訓練で人を知る・大学を知る」という演題で基調講演をお願いし、本学をしっかりと理解したいと希望して実務訓練制度を活用されている経営者の思い、学生への力強いアドバイスを語っていただきました。また、パネルディスカッション(実務訓練で創る理

想的な相思相”愛”とは)では、4名の本学卒業生と2名の修士学生から、企業と実務訓練生が相思相愛を深めた貴重な体験を聞かせていただきました。

実務訓練は、自己の能力を磨く場ですが、それと同時に企業と大学がお互いを理解する場でもあります。学生の皆さんには、今回のシンポジウムの熱心な議論を参考に、10月からの実務訓練で有意義な成果をあげていただきたいと期待しています。



実務訓練@タイを振り返って



実務訓練最終日のパーティーにて。本当に良い方たちでした!

機械創造工学専攻1年
(大阪府立高専出身)
藤澤 良太
RYOTA FUJISAWA

実務訓練先：NIDEC COPAL (THAILAND) CO., LTD.
(日本電産コパル(タイランド)株式会社)

大学を飛び出して実社会で実習を行う実務訓練。それだけでも大変そう、まして海外での実習となれば文化の違いや、拙い語学力が壁となりつらさも倍増・・・と、赴く前はそんなことばかり考えていました。

私は、日本企業のタイ現地法人で実務訓練に取り組んで来ました。業務を通じて学べたことをあげれば、教科書にはない設計のコツであるとか、連携の大切さ・・・等々、きりがありません。タイには親切な人が多く、突然やってきた日本の大学生にも仕事のことから遊びのことまで本当に親切にしてもらいました。時

には、学生の私からみても仕事にルーズやなあと思うこともありましたが、それでもなんとか仕事が終わっていたところを考えると「マイベンライ」(タイ語で大丈夫の意)なのでしょう。首都に非常事態宣言がでたり、空港占拠ということもありましたが、周囲の「マイベンライ」の一言で気楽に、冷静に過ごせたように思います。

実務訓練は、貴重な経験と多くの驚き(と少しばかりのつらさ)を与えてくれました。この半年間の経験を、大学院やその後の人生を考えていく上で大いに役立てていただければいいなと思っています。

トピック

メタン高度利用技術研究センター設置



システム安全系 教授
門脇 敏
SATOSHI KADOWAKI

低炭素社会の実現において、長期的には二酸化炭素排出が殆んど無いエネルギー源の確保が必要です。しかし、世界で利用されている全エネルギーの8割以上を化石燃料に頼っている現状を鑑みずと、中期的には二酸化炭素の排出量が相対的に少ない化石燃料(天然ガス)の使用が不可欠です。このような状況下において、天然ガスの主成分であるメタンの有効利用が世界中で注目を浴びています。加えて、メタンはバイオ技術を用いて生成することが可能ですので、この技術の確立によりカーボンニュートラルな燃料として利用することができます。

本学が設置されている長岡市には、日本国内の天然ガスの大半が埋蔵されており、毎日二百数十万世帯分のガスが生産されています。また、本学にはメタンのエネルギー変換や物質転換に関わる研究に取り組んでいる教職員が多く存在します。そこで本学では、メタンの有効利用を図るために、「メタン高度利用技術研究センター」を学内共同教育研究施設として5月に設置しました。その目的は、従来にない高度なメタン利用技術を分野横断的に発展させ、新たな地域産業を起こすとともに、先端的研究者及び先導的技術者の養成を通して、低炭素社会の実現を目指すことです。

センターには、①エネルギー変換部門、②物質転換部門、③システム安全管理・周辺技術部門、④エネルギー政策・国際連携部門の四つの研究部門が置かれています(図1参照)。これらの部門が密接に連携を取りながら研究を推進します。学長をセンター長とする本センターは、今後、低炭素社会の実現に向けて活発な活動を行う予定です。

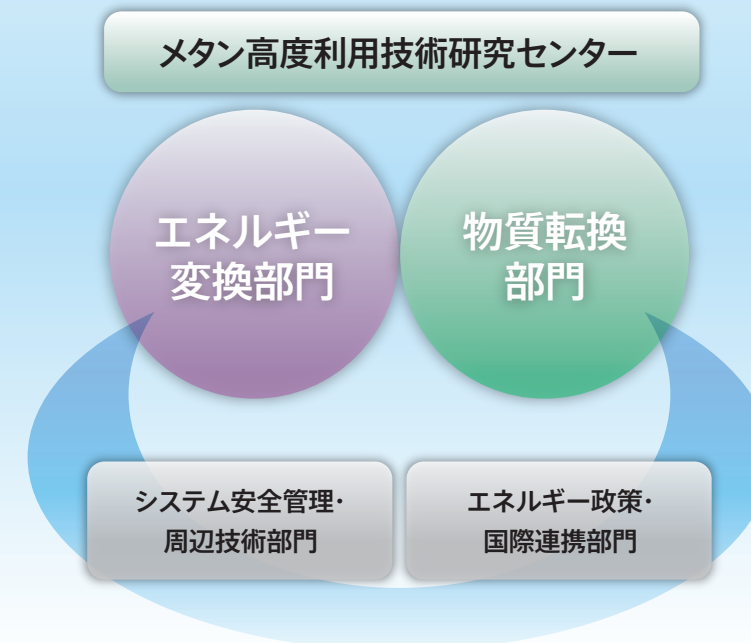


図1 メタン高度利用技術研究センター

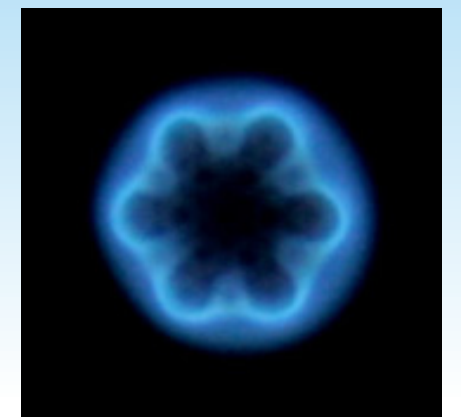
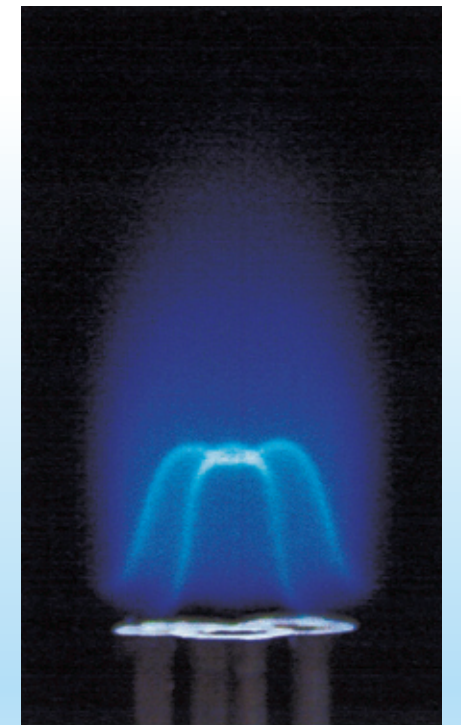


図2 メタン火炎

イベント情報 Event

NUT テクノミュージアムだより ～第4回企画展を開催しました！～

経営情報系 准教授 五島洋行
HIROYUKI GOTO



NUTテクノミュージアムは、本学の保有する様々な技術やノウハウを、一般の方や専門外の方にも分かりやすく紹介する、まさに大学の博物館ともいべき施設です。博物館とは言っても、難解な解説は極力減らし、実物・体験型の展示を多くして、誰でもすぐに理解できるように工夫してあります。

通常期の常設展示のほかに、1年に2回、開催時期を限定した企画展を開催していま

す。企画展では毎回、ホットな話題を一つとりあげてコンセプトを決め、関連する研究を行っている研究室に、研究内容を紹介してもらっています。

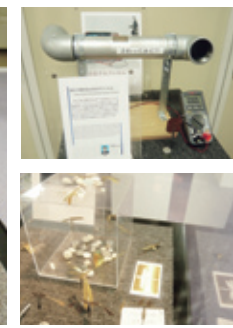
今年度第1回目は、5月11日から6月5日まで、「暮らしを豊かにする情報・制御技術」と題して、リモートセンシング、画像処理、消音技術など、音や画像などの「情報」を、正確かつ迅速に処理するための技術がいくつか

紹介されました。

単に見てさわって楽しむのもよし、高度な技術に感心するのもよし、あるいは「これが実用化にこぎついたら、我々の生活はこう変わるかも」と想像するのも楽しいかもしれません。技大にお越しの際には、是非テクノミュージアムにお立ち寄りください。なお、次回企画展は9月7日から10月9日までの開催を予定しています。



5月23日に開催した「てくみゅカフェ」。機械系武田准教授が「熱から電気を生み出す材料」について、参加者とお茶を飲みながら語り合いました。



技大祭・父母懇談会・国際祭りのご案内



第29回 技大祭



本年度のテーマは「enjoy」です。コンサート、ステージ発表、サークル展示、研究室公開等が行われるほか、各種模擬店が開かれます。お子様向けのゲームコーナーもあります。技大祭は大学と地域の皆様との交流の場となっています。多数のご参加をお待ちしております。

■日時／平成21年9月12日(土)～13日(日)
■会場／長岡技術科学大学

○お問い合わせ
学生支援課 学生係 Tel.0258-47-9253

父母懇談会（技大祭と同時に開催）



学部学生のご父母の皆様へ、本学の近況をご報告した後、個別面談を行い、ご意見やご要望をお聞きます。

■日時／平成21年9月13日(日) 10時～15時30分
■会場／長岡技術科学大学 A講義室(全体会)
各課程の会議室等(個別面談)

○お問い合わせ
学務課 父母懇談会担当
Tel.0258-47-9241 e-mail:kyoumu@jcom.nagaokaut.ac.jp

第11回 国際祭り（技大祭と同時に開催）



留学生会が地域の方々と親睦を目的として開催します。自国の文化を紹介したり、日本の文化を教えてもらったり、お互いの文化の交流を行います。様々な国の歌、踊り、写真、民芸品や料理、まさに国際の祭りです！

■日時／平成21年9月12日(土)～13日(日)
■会場／長岡技術科学大学

○お問い合わせ
国際課 留学生支援係
TEL.0258-47-9286 e-mail:ryugaku@jcom.nagaokaut.ac.jp